

研修 (study)全体の流れ

チームビルディング

1 2021/07/16
18:30-21:00

ツール学習

2 2021/07/30
18:30-21:00

価値分析 1

3 2021/08/06
18:30-21:00

価値分析 2

4 2021/08/20
18:30-21:00

概要と学習の要点

1. 8回の学習と研究にあたり、参加者どうしの理解を深め、今後の学習に関するプロセスとDXの予備知識を習得する。
 2. 価値分析に使用するツールを学習する。
- ※この学習の意義と使用方法論を学ぶ。

1. ゴールと戦略を策定するためのツールを学習する。
 2. ビジネスプロセスを設計するためのツールを学習する。
 3. 学習に使用するケーススタディを理解する。
- ※この学習の意義と使用方法論を学ぶ。

ケーススタディの中からビジネスのすべてのステークホルダを洗い出し、ステークホルダの持つコンテキスト（課題、悩み、痛み、ニーズ）からステークホルダへ提供できる価値を抽出する。

※価値分析の肝であるステークホルダのコンテキストを分析し、ステークホルダに提供できる価値を抽出する方法を学ぶ。

ステークホルダの関係を描き、提供価値の流れをマップ化する。

※ステークホルダ間の価値の流れを描くことで、DXを設計する上でのビジネスフィージビリティ、相互に寄与できる価値関係、エコシステムのWinWinを俯瞰し、検証する。

学習スケジュール

1. 自己紹介(20分)
1人1分程度で自己紹介
2. 本WGの目的と概要紹介(30分)
1) 目的と概要、学習の進め方
3. DXとはなにか(30分)
1) 経済産業省DXの概要
2) The Seven Levers of Digital Transformation
4. ツール学習 1 (70分)
1) 価値分析編
2) オニオンモデル、CVCA、VPC
3) GQM+Strategies

1. ツール学習 2 (120分)
1) Archimate **山本先生**
2) 演習
3. ケーススタディ説明(30分)
1) MaaSの考え方
2) MaaSプラットフォーム事例
3) ケーススタディ

1. 演習の進め方(10分)
2. ステークホルダの洗い出し(20分)
ケーススタディから新たな事業に関係する全てのステークホルダを洗い出す。（オニオンモデルを使ってステークホルダの位置を明確化）
3. ステークホルダへの提供価値を分析する(90分)
VPCを使って、関係する全てのステークホルダへの提供価値を分析する。
4. ステークホルダへの価値提供の流れをマップ化する(90分)
CVCAを使って、ステークホルダの関係性と価値提供の流れを図で表現する。その際、お金(金額価値)の流れも明確にする。（ビジネスフィージビリティ）
5. ゴールと戦略のネタだし(90分)
GQM+Strategiesの全体構造を考えながら、ゴールと戦略のネタを出す。（GQM+Strategiesグリッドでゴール、戦略を考え、木構造で並べる）



研修 (study)全体の流れ

5 ゴールと戦略 1

2021/09/10
18:30-21:00

6 ゴールと戦略 2

2021/09/24
18:30-21:00

7 ビジネスプロセス設計

2021/10/08
18:30-21:00

8 検証と振り返り

2021/10/22
18:30-21:00

概要

ステークホルダの価値分析を基に、事業化する上でのゴール、戦略(施策)を構造化して整理する。(GQM+Strategies)

※ゴールはステークホルダへの提供価値とビジネス価値から導出し、戦略はDX視点で導出する。なぜその戦略が導き出されたのかを事実と仮定とに分けて整理する方法を学ぶ。

GQM+Strategiesの戦略(施策)を測るKGI、KPIを導出。さらに作成したGQM+Strategiesグリッドを検証する。

※戦略の達成を図るKGI、KPIを導出する考え方 (GQM)を学ぶ。さらに、設計した構造図の整合性の検証方法を学ぶ。

ビジネスプロセスと活用データを設計する。

※ゴール、戦略からビジネスプロセスを導出する方法、並びにデジタル(データ)を活用したビジネスプロセスへの変革方法を学ぶ。

今までの成果物を比較しながら、価値分析～ゴール、戦略策定～DXのためのビジネスプロセスの整合が取れているかどうか検証する。

さらに今までの進め方における課題や改善について議論し、まとめる。

※プロセスごとの成果物全体の検証と改善点の洗い出しを学ぶ。

学習と研究の要点

1. GQM+Strategiesの階層化するにあたっての留意点を説明(10分)
2. GQM+Strategiesグリッド作成(140分)

- 1) ゴール、サブゴールを階層化
- 2) 戦略を設定
- 3) 上記の際に、ゴール、サブゴール、戦略をブラッシュアップしていく。
- 4) 一旦、グリッドが作成できたら、ゴールと戦略の間に、戦略を導いた根拠 (Context, Assumption)を言語化。

1. GQMグラフの作成(80分)
 - 1) KGI、KPIを設定 その際に、GQMグラフを使って設定
2. HoRIMの説明と活用(70分)

- 1) HoRIMの説明(10分)
- 2) HoRIMでの検証(30分)
- 3) グリッド見直し(30分)

1. Archimatelによりビジネスプロセスをモデリング(90分)

2. Archimatelによりビジネスプロセスで活用するデジタル(データ)をモデリング(60分)

1. 今までの成果物をまとめ検証する(60分)

2. 各班の発表(1Gr15分×4班=60分)

3. 課題と改善点の抽出(30分)

